



昭和十一年

十月廿六

書

牛嶋

所



繪本直指寶卷之下目錄

福壽草

芍藥

萱草

映山紅

山石榴花

榴躑

杜鵑花

鸞尾

桔梗

蕙蘭之圖

幽蘭之畧

蘭系之畧

蓮花

拒霜

槲桐

秋海棠

長春

菊

鳥島後



水仙花  
字登野葦荻

葦荻  
雪中乃蘆  
小点芦

竹  
風雨の貌  
吳竹  
烏系美竹

大竹葉紙  
竹竿几式

芭蕉系竹

後身草

漢名を考へて此は臘月中旬より正月迄ありて芭蕉系  
花より花能く介する芭蕉系の中の花に似たり久き竹を  
名にたりて芭蕉系も白も黄も赤も葉は胡荽に似たり花は白

花のつぎに葉のたよりあり中の花は芭蕉系  
草の汁を煮て下りて葉は白も黄も赤も  
ありあり



かんとい石  
おんらん

牡丹

芍薬

宿願より花と云ふ。花は幹のオハハク。群花の中牡丹は最も大なる花也。葉は平三つ葉の牡丹と花王といふ芍薬と花相とを色は紅白牡丹の二種あり。牡丹は二重八重千重の清明の節盛なり。一輪あり。一花あり。一花は幹毎に一花を著く。一花の葉は三枚の葉に成り。芍薬は地より苗を出さる。二二枚の葉の葉に成り。一花あり。一花は幹より出さる。牡丹は葉の葉に成り。牡丹は二種あり。

大花の牡丹は小葉の牡丹より大なり。牡丹は花の葉は平三つ葉の牡丹と花王といふ芍薬と花相とを色は紅白牡丹の二種あり。牡丹は二重八重千重の清明の節盛なり。一輪あり。一花あり。一花は幹毎に一花を著く。一花の葉は三枚の葉に成り。芍薬は地より苗を出さる。二二枚の葉の葉に成り。一花あり。一花は幹より出さる。牡丹は葉の葉に成り。牡丹は二種あり。



馬場後編











蘭譜

蘭本下冠花葉如芝  
 二尺四時常青花黃綠色中間瓣上有細紫點花間與兩堂盡香與他  
 花香別時珍曰世所謂蘭花非古之蘭也黃山谷所謂一幹一花  
 為蘭一幹數花為蕙者蓋因不識蘭草蕙艸遂以蘭草強生分別也又  
 曰朱子離騷辨證言古之香草必花葉俱香而燥濕不變下略古之蘭  
 似澤蘭而蕙即今之零陵香今之似茅而花有兩種者不知何時誤也  
 ○唐士亦冠宗爽李時珍考之編後世今本類一葉一花  
 花ととも和訓をぬらんとて和字は多くよみまをり今新本は其のあり

七月  
花あり



蕙蘭  
之圖

花をみたり葉のけしきをみたりして  
 又まうたふたふたをみたりして  
 花をみたり葉のけしきをみたりして  
 又まうたふたふたをみたりして

幽蘭之圖



蘭草澤菜一物二種あり俱よ水の旁下濕の處に生ぜ二月宿根より苗を生じ  
 葉とすす紫葉素枝赤節緑葉に射して生じ細齒あり花一若香く高根に  
 葉に波ある葉を葉茶とて以茶の葉方ちして節近く葉に毛あり○本草にあり  
 處固ふおもたつた葉草の根は入秋は白花を帯く花の態胡荽苗の根に似たり  
 葉の頭よ傘にきく葉の根は入秋は白花を帯く花の態胡荽苗の根に似たり  
 花斗をきく白葉二種出花葉は清香あきとも花のりしてはあはれはあはれはは  
 ちうさかぬいとさう切く葉はけきく白く風ふたてある早生の葉草なり

蘭草の圖

是れも葉草なり赤は葉俱ふちをりぬき花の葉をむきしむ  
 ふちをりぬき花の葉をむきしむ  
 さうく来羽の付あつた今も所々にあり古赤に  
 ちうさかぬいとさう切く葉はけきく白く風ふたてある早生の葉草なり

七八月に花あり



花をさるるくくはるあんのどぐ  
 けあんとはきごふんげさ  
 葉ろくくや

馬島...

蓮華

千載の蓮華... 蓮華の葉は... 蓮華の花は... 蓮華の果は...

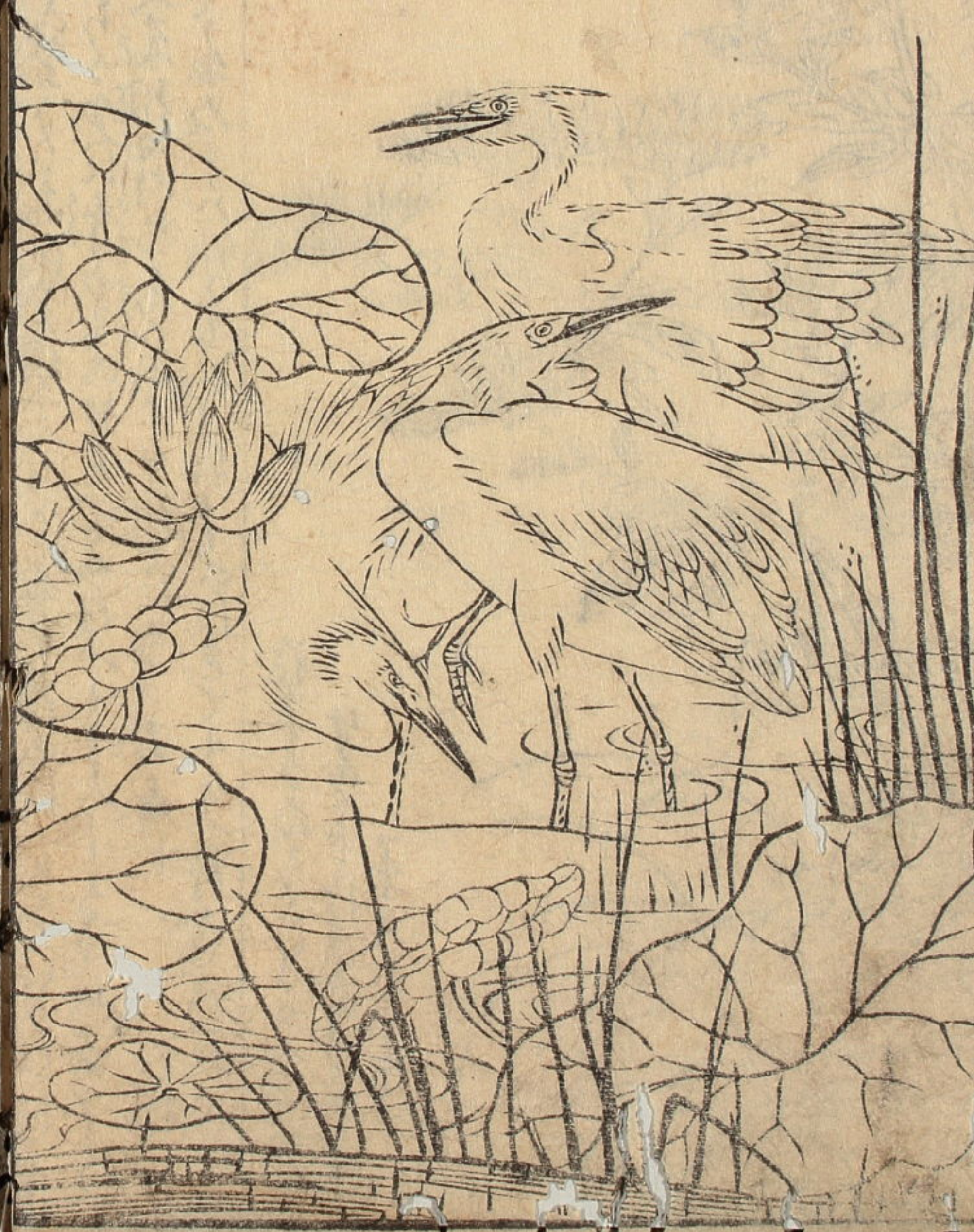
荷葉に露 蓮おそむ

あじのふあり

蒲葦をなす

用るもあり

六七月  
花あり



花あんののぐり

とくはふりせあんの

内房ごえん

さねより

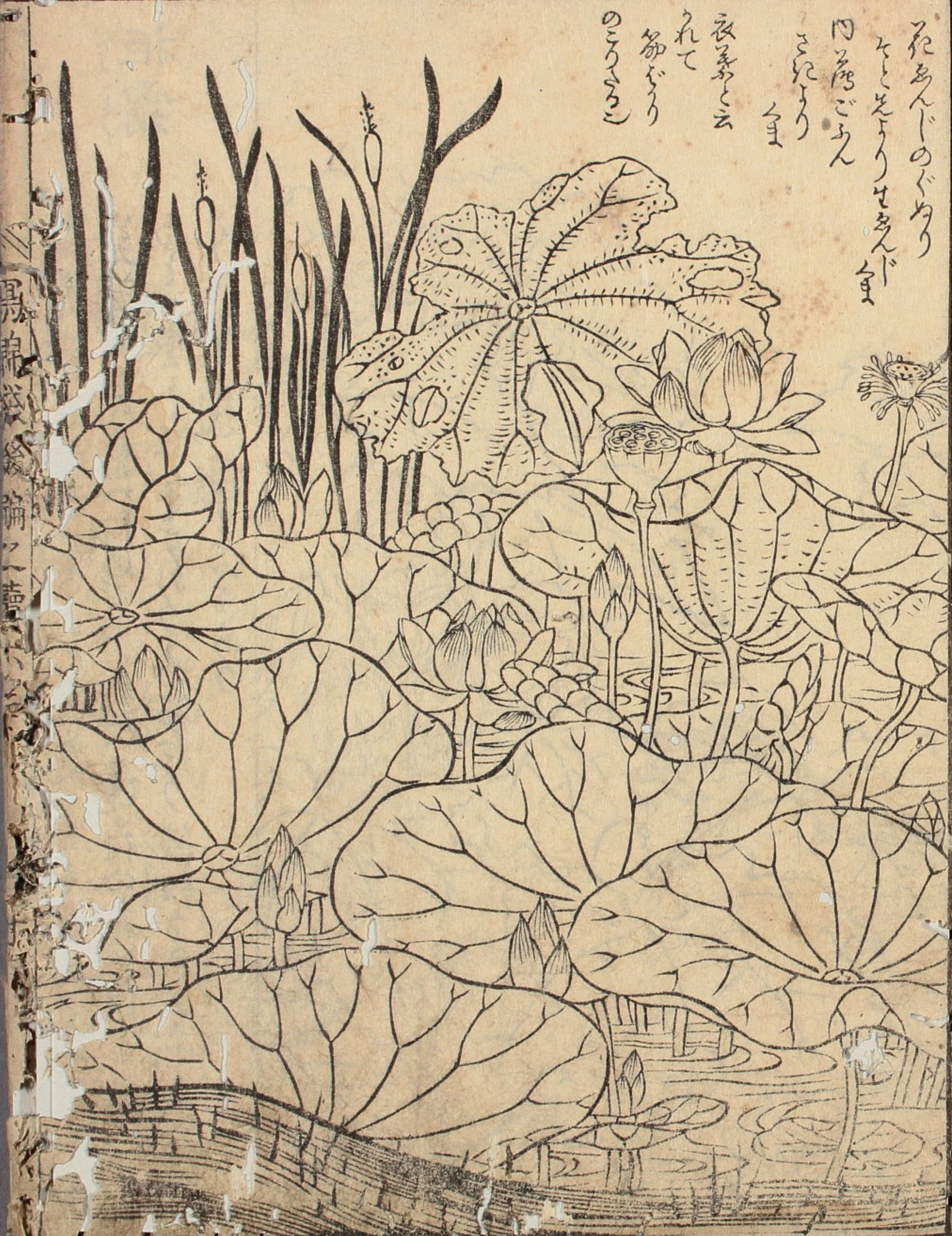
全

衣まき云

うれて

あざり

のころこ



鳥集... 論...





花うてらふくたみりい  
皆兼せふんドま



七八月  
花あり

いざり  
頼桐  
後倍桐誤  
花うてらふくたみりい  
本中の葉の花の色を屋にもいあふなるあ世花の如くはしに似  
うてか書たのうてらふくたみりい  
花うてらふくたみりい

花をきくともはあへんのく  
 めり内をきくよう  
 生あへんのちる母は  
 きくようあへんく  
 ちくわあへんく



七分に  
 花あり



秋海棠

花は白く大なるものあり  
 花は紅く大なるものあり  
 花は白く小なるものあり  
 花は紅く小なるものあり  
 花は白く大なるものあり  
 花は紅く大なるものあり  
 花は白く小なるものあり  
 花は紅く小なるものあり



長着

人家多... 花... 厚...

花せんと下の  
四多...  
うてま向うく  
ム...



四季... 花あり

三月...  
十二月...

花あり



花... 葉...





水鏡  
卷之六  
花  
...



花ごらん  
中々初ま方(白く)ま  
山あり(三)ふり(ふ)り  
...

...

馬錦...



萩

萩のふのぞく紫いりくまぐ中筋のふとてまがまがす後いり  
 とはたはたといふも此草に似るゆゑとてまがまがすとす



野

野のふのぞく紫いりくまぐ中筋のふとてまがまがす後いり  
 とはたはたといふも此草に似るゆゑとてまがまがすとす

馬鈴薯







風雨の貌

今カラ 稍頭放  
 節要蓋下節下節要承接上節中間雖是  
 漸離却要有連屬意思上一筆兩頭致起中間落下如少彎則  
 便見一竿圓混下一筆看上筆意趣承節不差自然有連屬意不  
 可齊大不可齊小齊大則如旋環齊小則如墨板不可大彎不可  
 大遠大彎則如骨節大遠則不相連屬無復生意矣



竹

葉



竹

之各一貌あり



竹



行

葉

草

真

馬島...

...

竹の葉は  
 風にならば  
 さらさらと  
 鳴るなり

竹の葉は  
 風にならば  
 さらさらと  
 鳴るなり



篆の文字の筆立隸字の八分字は筆立なり  
 草書楷鏡當世用真乃筆立なり



竹竿

畫枝下筆須健圓勁生意連綿行筆疾速不可  
 遲緩老枝則忽然而大起節祐瘦嫩枝則和柔而婉  
 順節小而肥滑葉多則枝覆葉少則枝昂風枝兩枝  
 觸類而長亦臨時有轉變不可拘於一律又大竹有  
 二種真竹大而籜有吳竹劣籜無點雖大竹葉不  
 過四寸淡竹不過三寸葉每莖二枚或三四枚

莖葉竹籜

莖竹ハ籜種あり何の葉も皆蘆に似る故に名を竹ハ籜の類  
 竹ハ籜成ると竹とあり時籜を脱墜莖竹乃類何れ籜と籜  
 長く葉真竹異竹と籜種あり竹ハ葉ハ長と六七寸枝の短く  
 莖六七枚より十八九枚に似る一種葉大に廣半堅竹の如く薄竹と  
 云根條濃蔭又條各葉以品を半之細く籜物なり

有初為其字為之哉

新... 竹...

竹...

竹...

竹...

竹...





